

IAIS 市中協議文書

「AI の監督に関するアプリケーションペーパー」に意見提出

日本損害保険協会(会長：城田 宏明)は、保険監督者国際機構(IAIS)が2024年11月19日から2025年2月17日にかけて市中協議に付した「人工知能(AI)の監督に関するアプリケーションペーパー(AP)(※1)」に対する意見を提出しました。当該意見は、添付1をご参照ください。

1. 市中協議の概要

- AI システムの導入の世界的な拡大は、パーソナライズされたエンゲージメントによる契約者維持の強化、契約・リスク管理の効率化によるコスト削減等、保険業界全体に利益をもたらす一方で、社会的偏見・差別、データプライバシー等のリスクを伴う。また、一部のAI システムの不透明で複雑な性質により、保険会社が説明責任を果たすことが困難になるという問題もある。このような懸念に対処することは、業界の信頼と公正を維持するために最も重要である。
- 本 AP の目的は、保険セクターにおける AI の利用について適切かつグローバルに一貫した監督を推進するため、保険基本原則(ICP)(※2)を適用する監督当局を支援することである。また、本 AP は、ICP の重要性を強化し、ガバナンスと行動に関する既存の期待が、AI を利用する監督当局と保険会社にとって、いかに不可欠な検討事項であり続けているかについて概説している。
- 本 AP は、①ガバナンス・説明責任、②堅牢性・安全性・セキュリティ、③透明性・説明可能性、④公正さ・倫理・救済の4項目で構成されている。

2. 損保協会意見(抜粋)(詳細は添付1ご参照)

- AI 利用は、保険セクターの発展のためには不可欠であり、また消費者も大きなメリットを享受できるものとする。公平性が阻害される等の懸念を適切に取り除きながら活用を推進するべきである。
- AI 利用におけるデータセットや透明性の問題は、保険セクター固有の問題ではない。そのため、IAIS や保険当局には、金融セクター全体やAI セクターなど幅広いセクターで連携した対応をお願いしたい。
- IAIS が保険セクターの実態を踏まえた AP を作成することの意義は認めるが、技術革新が急速に進んでいる分野であり、それに合わせて AP も機動的に見直しすることも必要である。

当協会は、IAIS における国際保険監督基準策定の議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。

(※1) アプリケーションペーパー

IAIS の監督文書(ICP、ComFrame 等)の特定のテーマに関して、原則や基準の一律な解釈や適用が難しい場合に、事例やケーススタディを提供することを目的に作成される文書。助言や具体例、推奨、事例などを含む。

(※2) 保険基本原則(ICP)

保険セクターの健全性を促進し、適切に保険契約者を保護するために必要な保険監督にあたっての基本原則などを定めた、IAIS の監督文書であり、あらゆる保険グループおよび保険会社を対象としている。

番号	質問 (仮訳)	損保協会意見 (和文)	損保協会意見 (英文)
1	AP に関する全般的コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険会社における AI の活用は今後も急速に進むことは確実であり、保険セクターの発展のためには不可欠である。また AI の活用は消費者にとっても大きなメリットがあるため、公平性が阻害される等の懸念を適切に取り除きながら活用は推進すべきである。 ・ AI におけるデータセットや透明性の問題は保険セクター固有の問題ではない。そのため、IAIS や保険当局には、銀行、証券等の金融セクター全体や AI セクターなど幅広いセクターで連携した対応をお願いしたい。 ・ IAIS が保険セクターの実態を踏まえた AP を作成することの意義は認めるが、技術革新が急速に進んでいる分野であり、それに合わせて AP も機動的に見直しすることも必要である。 	<p>The use of AI within insurers will surely continue to advance rapidly and is essential for the development of the insurance sector. Since the use of AI also offers significant benefits to consumers, it should be promoted while appropriately removing concerns such as impediments to fairness.</p> <p>The issues of dataset and transparency in AI are not unique to the insurance sector. Therefore, we would like supervisors to consider collaborating with a wide range of sectors, including the financial sector as a whole (including the banking and securities sectors) and the AI sector.</p> <p>Although we recognize the significance of the IAIS preparing the AP based on the actual conditions of the insurance sector, it is necessary to review the AP flexibly in accordance with the ongoing rapid technological innovation.</p>
4	セクション 2.1 コンテキストと目的に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラ 9 「例えば」の前後で一般論と具体例とが対応していない。この一般論からすれば、「例えば」の後には「AI システムの導入」の法令違反等ではなく、「AI が偏りに基づいたり、不正確な出力やデータ品質・プライバシー等に影響された予期せぬ挙動を行うこと」によって生じた被害を記載すべきと考える。 ・ Box 1 の 1 については、「個人の特定」だけでなく「(誤った推知に基づく) プロファイリング」という問題もあり、本ペーパーの他の記載や、金融機関としての AI 利活用における問題としてはむしろプロファイリングの方が大きいと思われるため、この問題についても取り上げてはどうか。 	<p>Paragraph 9 : There is no correlation between the general discussion and specific examples before and after "for instance" in the second sentence of Paragraph 9. In view of the general discussion in the preceding part, we believe that, after "for instance", damage that may be caused by "AI's unexpected behavior affected by algorithmic bias, hallucinations, data quality, privacy, etc.", rather than breaches of laws or regulations, etc. following "deployment of AI systems" should be described.</p> <p>Regarding the first part of Box 1, the problem is not only "identification of individuals" but also "profiling (based on incorrect inferences)". Because profiling seems to be a somewhat bigger problem in the use of AI within</p>

		<p>・ Box 1 の 3 について、「さらに、プライシング…」の部分はデータドリフトの問題についての言及に見られるため、具体例の前に、一般論を記述してはどうか。例えば以下の文言を追加することが考えられる。</p> <p>---</p> <p>さらに、データの変化にモデルが対応しきれない可能性が考えられる。例えば、プライシングや引受業務で…</p> <p>---</p> <p>・ Box 1 の 6 について、AI システムのモデルだけではなく、AI システムを構成するその他コンポーネントも、モデルへの攻撃により悪影響を及ぼされるリスクがあるという記載を追加しても良いのではないか。例えば、RAG (Retrieval Augmented Generation) システムにおける「間接プロンプトインジェクション」の問題が挙げられる。</p> <p>・ Box 1 の 7 について、集中リスクにより生じる事象としては、システムリスクだけでなくいわゆるデジタルカルテルの問題もあると考える。デジタルカルテルには、AI モデル開発者や AI ベンダー側に責があるケースもあり業界横断での対応が必要となるものがあると考えられる。業界横断的なリスクの整理や、独占禁止法との関係整理などが必要である点についてもコラム内で触れておいてはどうか。</p>	<p>financial institutions (as discussed in other parts of this AP), we suggest including profiling in this part.</p> <p>It seems that the third sentence of the third part of Box 1 refers to the issue of data drift. Therefore, we suggest adding a general comment before giving specific examples, as follows:</p> <p>"Moreover, there are possibilities that models may not be able to respond to changes in the data. For example, if an AI system used in pricing and underwriting fails to adapt to a changing market..."</p> <p>Regarding the 6th part of Box 1, we suggest adding a statement that not only AI system models, but also other components of such systems, are at risk of being adversely affected by attacks on the models. For example, there is the issue of "indirect prompt injection" in RAG (Retrieval Augmented Generation) systems.</p> <p>Regarding the 7th part of Box 1, we think that incidents resulting from concentration risks have the potential to cause not only systemic risk, but also digital cartel issues. In some cases, digital cartel issues are attributed to AI model developers or AI vendors, and a cross-industry response seems necessary. We suggest describing the necessity of sorting out cross-industry risks and clarifying how the Antimonopoly Act, etc. are related in this context.</p>
5	<p>セクション 2.2 AI システムの定義に関するコメント</p>	<p>・ AI (特に生成 AI) については、いわゆるチャットボットのような単独で使われるシステムのほか、他のプログラム等と組み合わせて活用されるケースが今後は増えていくことが想定される (特に、昨今では生成 AI からの出力を制御す</p>	<p>AI (especially GenAI) is expected to be increasingly used in combination with other programs in addition to stand-alone systems such as so-called chatbots. In particular, there are technologies which control the output of GenAI by, for example, preventing hallucinations by combining it with</p>

		<p>る技術として、他の AI や他のプログラムと組み合わせてハルシネーションを防止したり、意図的に悪意のあるプロンプトを入力することで、本来意図しない動作を引き起こすプロンプトインジェクションからの防御手段とするものがある)。その場合、本ペーパーがそういった「複合的」なシステムに適用されるのか否か、また部分的に適用されるのであればその範囲が不明確となるおそれがあると考えられる。そのような疑義を生じさせないよう、本ペーパーにおける「AI システム」の定義について明確にし、適用対象を記載すべきと考える。</p> <p>・本 AP の対象・目的は、AI システム固有のリスク・特性に関わる領域に限定されているという理解である (ref.Section2.2 パラ 16、Section2.3.1)。セクション 2.2 のパラ 13 では非 AI システムも検討の対象とすべきとの記載があり、本 AP の対象・目的をあいまいにしているため、まず本ペーパーにおける「AI システム」の定義・対象を明確化した上で、パラ 13 の「さらに、…AI システムとして定義されていない他のモデルにも存在する可能性があるかどうかを検討すべきである。」は削除することを提案する。</p>	<p>other AI or programs, or intentionally inputting malicious prompts to defend against prompt injection attacks, which cause unintended behavior. Considering such circumstances, we are concerned that this AP is applicable to such "composite" systems, and also that, if it is partially applicable, its scope may be unclear. In order to prevent such concerns, we suggest further clarifying the definition of "AI systems" in this AP and describing the scope of its application.</p> <p>We understand that the scope and purpose of this AP are limited to areas related to the risks and characteristics inherent in AI systems (ref. Section 2.2, Paragraph 16, Section 2.3.1). Paragraph13 indicates that non-AI systems should be within the scope of consideration, which makes the scope and purpose of this AP ambiguous. Therefore, we suggest first clarifying the definition and scope of AI systems in this AP, and deleting the last sentence of Paragraph 13.</p>
7	<p>セクション 2.4 プロポーシオナリティとリスクベースの監督に関するコメント</p>	<p>・プロポーシオナリティ原則およびリスクベースの考え方を AI システムの文脈でも適用することに賛同する。消費者への影響が少ない内部システム分野で使用される AI とプライシングやアンダーライティングといった分野の AI では、リスクの大きさが異なり、求められる管理や説明責任のレベルに差をつけるべきである。プロポーシオナリティ原則の判断基準は、一律・硬直的に定めたり、過度に保守的なものとするのではなく、保険会社が対象のリスク特性に応じて柔軟</p>	<p>We agree with applying the proportionality principle and the concept of risk-based supervision in the context of AI systems. The risk volume differs between AI used in internal systems with smaller influences on consumers and AI used in pricing and underwriting. Therefore, the required level of management and accountability should be made different. Criteria for the proportionality principle should not be determined uniformly and rigidly, or excessively conservatively. It is important for insurers to determine criteria flexibly according to the risk characteristics of the AI system.</p>

		<p>に定めることが重要である。</p>	
<p>8</p>	<p>セクション 2.5 監督当局の役割と監督ツールに関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険セクターにおける AI システムの活用は今後も急速に進むと考えられ、監督・モニタリングする監督当局の側においても、保険会社と同様に、環境変化に柔軟・機動的に対応できるリソースを確保し、保険会社の競争力を削がないような対応を求めたい。 ・ AI システムの適切な管理にはまずリスクに対する認識を保険会社が深める必要がある一方で、AI システムに関するインシデント事例の蓄積は進んでいないと理解している。監督当局には、自組織内の教育・研修のみならず、業界全体の AI ガバナンス能力向上に向け、保険セクターに留まらない事例の蓄積や保険会社とも連携した早期かつ広範な情報共有機能にも期待したい。 ・ パラ 31 において、関係当局間での連携に言及されているが、実効性ある AI ガバナンスの実現に向けてはビジネスサイドにて日々得られる知見や取組みなどを把握しておくことが重要と考えており、関係当局間のみならず保険会社との連携についてご検討頂きたい。AI 活用には協調領域と競争領域が存在するが、AI ガバナンスに関しては協調領域に該当すると考えており、複数保険会社間で知見取組共有を行うことでより実効性ある業界標準 (AI ガバナンス充足の為に必要な体制や機能、ガバナンス状況のモニタリング頻度や要領等に関する業界標準) が策定できるものとする。個社や業界の競合他社同士での企画・構築は課題が多いため、関係当局と複数事業者を一にした議論等の枠組み構築に向けて、監督当局に主導頂けるとありがたい。ただし、競争領域に関しては、共有すべき範囲について注意する必要がある (例えば、AI モ 	<p>The use of AI systems in the insurance sector is expected to continue to grow rapidly. We would appreciate it if the authorities that supervise and monitor the sector, like insurers, have the necessary resources to respond flexibly and agilely to changes in the environment so as not to undermine the competitiveness of insurers.</p> <p>While we understand that insurers firstly need to deepen their awareness of risks in order to properly manage AI systems, the accumulation of incident cases related to AI systems has not been sufficient. We expect supervisors to not only provide education and training within their organizations, but also to accumulate cases that go beyond the insurance sector and collaborate with insurers to share information quickly and widely to improve AI governance capabilities across the industry.</p> <p>Paragraph 31 explains cooperation with other authorities. In order to achieve effective AI governance, we think it is important for the industry side to gain insights and information on relevant measures on a daily basis. Therefore, we would like supervisors to consider cooperation not only among relevant authorities but also with insurers. Although there are both collaborative and competitive domains in the use of AI, we believe AI governance falls under the collaborative domain, and more effective industry standards (standards for systems and functions required to fulfill AI governance, monitoring frequency and procedures for governance status, etc.) can be established by sharing knowledge and initiatives among multiple insurers. Since there are many challenges in planning and establishing standards by an individual company either working alone or</p>

		<p>デル構築に費やしているコストの話や保険金の不正支払に関する AI モデルの内容など。</p>	<p>working together with industry competitors, we would be grateful if supervisors could take the lead in establishing a framework where the relevant authorities and multiple insurers are able to join in the discussion. However, due care should be taken to determine the scope to be shared in the competitive domain (for example, the cost of building AI models, or the content of AI models, to prevent fraudulent insurance payments).</p>
9	<p>セクション 3 に関する全般的コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過度に保守的な監督規制を設ける場合には AI 活用を妨げる可能性があるが、AI におけるガバナンスと説明責任は、AI 活用を促し事業の利便性や高度化するためのガードレールとして重要なものであると認識している。 ・パラ 36 にて「リスク評価基準」について触れていることから、AI システム開発ライフサイクルの各段階におけるレビューなど、定期的なリスクの見直し機会を設けることが望ましいといった観点を追加してはどうか。 	<p>While overly conservative regulations may hinder the use of AI, we recognize that AI governance and accountability are important guardrails to encourage its use and make our businesses more convenient and sophisticated.</p> <p>As Paragraph 36 refers to risk assessment criteria, we suggest adding the perspective that it is desirable to have opportunities to regularly review risks, such as at each stage of the lifecycle of AI system development.</p>
12	<p>セクション 3.3 企業文化に関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ 39 の 1 つ目の箇条書きにおいて「…特に、AI システムの購入、開発、検証、導入、監査に携わる従業員に対し、これらの規範が公正に周知されていることを確認する」とあるが、周知されるべき従業員には、AI システムを業務で利用する従業員も含めるべきではないか。具体的には以下の記載が考えられる。 <p>---</p> <p>…特に、AI システムの購入、開発、検証、導入、監査に携わる従業員ならびに AI システムを業務で利用する従業員に対し、これらの規範が公正に周知されていることを確認する。</p> <p>---</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラ 39 において、AI システムのアウトプットが公正で、説明可能であり、偏りがなく、契約者保護が適切に確保され 	<p>While Paragraph 39 (the first bullet point) describes "specifically ensuring these norms are made clear to those employees that are involved in the purchase, development, validation, implementation and audit of AI systems", employees that use AI systems at work should also be included within the scope. We suggest revising the part as follows:</p> <p>"...specifically, ensuring these norms are made clear to employees involved in the purchase, development, validation, implementation, and audit of AI systems, as well as those who use AI systems in their work."</p> <p>Regarding the second bullet point of Paragraph 39, "to ensure that the output generated by these systems is fair, explainable, unbiased and ensures adequate policyholder protection", it is extremely difficult to ensure that all these points are covered in all cases. In addition, as the</p>

		<p>ることを「確実にする」とあるが、あらゆるケースにおいてこれを確実にすることは極めて困難である。また、AI システムの用途や性質によって影響の範囲は異なることから、以下のように表現を変更してはどうか。</p> <p>---</p> <p>プロポーショナリティ原則およびリスクベースの考え方に基づき、AI システムに関する期待値を明確に設定し、AI システムのアウトプットが公正で、説明可能であり、偏りがなく、(当該システムが契約者に影響を及ぼす場合には) 契約者保護が適切に確保されるよう努める。</p> <p>---</p>	<p>scope of impact varies depending on the use and nature of the AI system, we suggest revising the bullet point as follows:</p> <p>Based on the proportionality principle and risk-based approach, setting clear expectations for AI systems, and striving to ensure that the output generated by these systems is fair, explainable, unbiased and (where such systems affect policyholders) policyholders are adequately protected.</p>
<p>13</p>	<p>セクション 3.4 人的監督と経営責任の配分に関するコメント</p>	<p>・パラ 41 の 4 つ目の箇条書き、人間の監視の限界の節においては、機械的統制を用いた AI システムへのインプット・アウトプットの監視や抑止等も追加してはどうか。例えば以下のような記載が考えられる。</p> <p>---</p> <p>…標準的なリスク管理戦略(デューディリジェンスや第三者評価など)に加えて、保険会社は、システムの冗長性、機械的統制を用いた AI システムへのインプット・アウトプットの監視や抑止、あらかじめ指定された特定の条件下で AI システムの機能を停止させる、いわゆるキルスイッチの必要性がどの程度あるかを検討すべきである。</p> <p>・パラ 43: 上級管理職の責任として、記載された手順の確立に加えて、それを実行するためのリソース(予算・人財・設備)を確保することも記載してはどうか。</p> <p>また、1 ポツ、モデルの最終責任について触れた項目があるが、多様なリスクから構成される AI リスクの特性を踏まえ、</p>	<p>In the fourth bullet point of Paragraph 41 regarding the limitations of human oversight, we suggest adding oversight of and deterrence over input to and output from AI systems using mechanical controls. For example, we suggest revising it as follows:</p> <p>"...In addition to standard risk management strategies (such as due diligence and third-party assessments), insurers should examine the necessity of system redundancy, oversight of and deterrence over inputs and outputs to AI systems using mechanical controls, and so-called kill switches that would cause the AI system to stop functioning under certain pre-specified conditions."</p> <p>Paragraph 43: Regarding senior management duties, in addition to establishing the procedures explained, we suggest ensuring that the resources (budget, human resources, tools) are in place to implement them.</p> <p>Moreover, regarding the first bullet point of Paragraph 43 (on the ultimate</p>

		<p>リスク毎にリスクオーナーを定義することも検討されるべきではないか。例えば以下のような記載が考えられる。</p> <p>---</p> <p>モデルの最終的な責任を誰が負うのか、多様なリスクから構成される AI リスクの特性を踏まえ、必要に応じてリスク毎に責任者を定義することなども含め検討し、責任の所在を明確にする；</p> <p>---</p>	<p>responsibility for the model), taking into account the characteristics of AI risks, which are wide and varied, we suggest defining a risk owner for each relevant risk. We suggest revising it as follows:</p> <p>---</p> <p>Achieving clear lines of accountability by considering who holds ultimate responsibility for the model, including, as necessary, defining who is responsible for each risk considering the characteristics of AI risks, which consist of various types of risks;</p> <p>---</p>
14	<p>セクション 3.5 第三者の AI システムおよびデータの使用に関するコメント</p>	<p>・AI 利用には多くの場合、サードパーティのシステムを使用することが想定され、保険会社単独ではなく（再）委託先との連携が必須であることから、（再）委託先管理を適切に行う為に、保険当局に金融セクター全体や AI セクターなど幅広いセクターとの連携方法について検討していただきたい。具体的には、「保険セクターのオペレーショナル・レジリエンスに関するイシュー・ペーパー」において記述された、複数の国の監督当局とサービスプロバイダーの協調的なアプローチを、本件においても記載してはどうか。</p> <p>---</p> <p>パラ 66: 多くの場合、第三者サービスプロバイダーは世界中で、また異なるセクターで業務を行っている。そのような第三者サービスプロバイダーの集中リスクに対処するためには、業界と複数の国の監督当局と第三者サービスプロバイダーとの間で協調的なアプローチが必要である。</p> <p>---</p> <p>・パラ 45 「保険会社が第三者やアウトソーシングを利用し、そのプロバイダーが AI システムを利用する場合、保険会社</p>	<p>In many cases, the use of AI is expected to involve the use of third-party systems, and it is essential that the insurer works with (re)outsourcing companies rather than working alone. Therefore, we suggest that supervisors consider ways of collaborating with a wide range of sectors, including the financial sector as a whole and the AI sector to properly manage (re)outsourcing companies.</p> <p>Specifically, we suggest adding a coordinated approach between supervisors and service providers from multiple countries, which is described in the Issues Paper on Insurance Sector Operational Resilience as follows:</p> <p>Paragraph 66 of the Issues Paper: "Often third-party service providers operate around the globe and across different sectors. Addressing risks arising from concentration stemming from these third-party service providers would require a coordinated approach between the industry and supervisors from multiple countries and third-party service providers."</p> <p>While the first sentence of Paragraph 45 is consistent with the ICPs, it is assumed that a lot of information on external AI systems is not disclosed.</p>

が AI システムを開発した場合と同じレベルの監視が期待されるべき」の記載は、ICP と整合してはいるものの、外部の AI システムでは非公開な情報も多いものと想定される。サービスプロバイダーの果たすべき役割も重要であることに異論はないが、サービスプロバイダーに求めるもの、保険会社で対応すべきことについての整理をご教示いただきたい。なお、これまで以上に保険会社・サービスプロバイダー双方において作業や負担が発生することとなるため、「保険会社は、第三者の AI システムやデータを利用する際の潜在的な限界やリスクの評価に、関連する第三者を関与させるべきである」との記載について、「望ましい」や「可能な限り」といった記載とすべきである。

・パラ 46 において第三者からの十分な情報入手の必要性が記載されているが、生成 AI の開発者から情報提供をうけたり、契約条項に盛り込んだりすることは、市場慣行からも困難となる場合も考えられる為、「べき」ではなく「望ましい」や「可能な限り」といった記載とすべきである。

・パラ 47 について、集中リスクにより生じる事象としては、いわゆるデジタルカルテルの問題もあると考える。デジタルカルテルには、AI モデル開発者や AI ベンダー側に責があるケースもあり業界横断での対応が必要となるものがあると考えられる。業界横断的なリスクの整理や、独占禁止法との関係整理などが必要である点についても追記してはどうか。具体的にはパラの最後に以下のような追記が考えられる。

…また、結果的に業界横断での対応が必要となるものがあると考えられ、保険当局への情報共有などを通じて、業界横断

Although we agree with the important role that third-party service providers should play, we suggest organizing what insurers want service providers to do and what insurers should do. Furthermore, because additional work and burden will be imposed on both the insurers and the service providers, regarding Paragraph 45 which states that "insurers should involve third parties, as relevant, in their assessment of potential limitations and risks of the use of third-party AI systems and data.", we suggest using "desirable" or "as much as possible" rather than "should".

While Paragraph 46 refers to the necessity of obtaining adequate information from third-party service providers, given market practices, there would be cases where it is difficult to receive information from GenAI developers or to include such information provision in the terms and conditions of contracts. Therefore, we suggest using "desirable" or "as much as possible" rather than "should".

Regarding Paragraph 47, it is considered that incidents resulting from concentration risks also include so-called digital cartel issues. In some cases, digital cartel issues are attributed to AI model developers or AI vendors, and a cross-industry response would be necessary. We suggest describing the necessity of sorting out cross-industry risks and clarifying how the Antimonopoly Act, etc. are related in this context.

Specifically, we suggest adding the following sentence at the end of the paragraph:

"Furthermore, as some issues would require a cross-industry response in the end, it will be necessary to sort out, through information sharing with insurance authorities, cross-industry risks, and to clarify how the

		<p>的なリスクの整理や、独占禁止法との関係整理などを行うことが必要である。</p> <p>---</p>	<p>Antimonopoly Act, etc. are related."</p>
15	<p>セクション 3.6 トレーサビリティと記録の保持に関するコメント</p>	<p>・ トレーサビリティと記録の保持をできるだけ行うことが望ましいが、第三者のプロバイダーからデータソースやコンテンツ生成に関わるプロセスの開示を受けることは現実には困難となる場合も考えられ、その場合、あらゆる AI システムについて義務づけることは保険会社の競争力を阻害することになる。したがって 48 パラ 1 文目を以下のように修正してはどうか。</p> <p>AI システムの再現性とトレーサビリティを確保するため、監督当局は保険会社が AI システムのトレーニングに使用したデータソースとコンテンツ生成に関わるプロセスを追跡できる仕組みを導入するよう促すことが望ましい。</p>	<p>Although it is desirable that insurers ensure traceability and record keeping as much as possible, there would be cases where it is difficult in practice to obtain disclosure of data sources and content generation processes from third-party providers. In such cases, requiring this for any AI system would become a hinderance to insurer competitiveness. Therefore, we suggest revising the first sentence of Paragraph 48 as follows:</p> <p>For reproducibility and traceability of the AI system, it is desirable for supervisors to encourage insurers to implement mechanisms that can track data sources used in training AI systems and the processes involved in content generation.</p>
17	<p>セクション 4.1 「はじめに」に関するコメント</p>	<p>・ ルールベースの AI システムを「非 AI」と呼称するのは不正確かつ一般的な用法とも異なるため避けるべきと考えられ、以下のような記載の修正を提案したい。</p> <p>---</p> <p>従来の一般的に人間が設計した明示的なルールとロジックに依存したシステムとは対照的に、AI システム、特に基礎モデルは、非常に大規模なデータセットから学習する。AI システムはパターンを認識し、さまざまな領域の情報を分析して出力を生成する…</p> <p>—</p>	<p>It is considered that calling rule-based AI systems "non-AI" systems should be avoided as it is both inaccurate and different to commonly used terminology. Therefore, we suggest revising Paragraph 50 as follows:</p> <p>"In contrast to traditional systems which typically rely on explicit human-engineered rules and logic, AI systems, and especially foundation models, learn from very large data sets. They recognise patterns and generate outputs by analyzing information across different domains..."</p>
19	<p>セクション 4.3 AI システムの安全性</p>	<p>・ パラ 56 について、「システムとデータの完全性を維持することができる。」との記載があるが、前段で「セキュリティを</p>	<p>While the last sentence of Paragraph 56 states that "...insurers can...maintain the integrity of their systems and data", the first and</p>

	<p>とセキュリティに関するコメント</p>	<p>侵害する」ことに「対処するツール」について記載しているため、「データの完全性」との記載に限定せず、「システムとデータのセキュリティを維持することができる」としてはどうか。具体的には以下の記載が考えられる。</p> <p>---</p> <p>AI システムの利用を効果的にセキュリティ対策に組み込むことで、保険会社は高度な攻撃からプロアクティブに防御し、システムとデータのセキュリティを維持することができる。</p> <p>---</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラ 59 では、一般的なセキュリティリスクが記載されているが、プロンプトインジェクションを始め AI 固有のセキュリティリスクについても例示しては如何か。 ・Box 2 に「セクション 4.4 および 5.5」の記載があるが、該当するセクションが存在しない為、本記載については適当なセクションの記載あるいは、本記載の削除が必要と考える。 	<p>second sentences describe tools to address security breaches.</p> <p>Therefore, we suggest revising the last sentence as follows, without limiting the description to "integrity of data":</p> <p>"By ensuring that the use of AI systems is effectively captured within their security measures, insurers can proactively defend against sophisticated attacks and maintain their systems and data."</p> <p>While Paragraph 59 describes general security risks, we suggest adding examples of AI-related security risks, including prompt injection.</p> <p>While Box 2 refers to "Section 4.4 and 5.5", these sections do not exist. Therefore, we suggest adding appropriate sections or deleting the reference.</p>
<p>22</p>	<p>セクション 5.2 AI システムの成果に関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ 68 に記載のある「AI システムによるシステムリスクが高い場合」とはどのようなケースか具体的にご教示いただきたい。 ・パラ 68 の補完的なガバナンスの具体事例として、保険会社内の AI 利用者視点で AI を安全に利用するための使い方についてのガイダンスを行うことが望ましいといったことを追加してはどうか。 ・パラ 69 で「AI システムが設計された条件下で、十分な信頼性に達した場合にのみ作動するようにしなければならない」と記載されているが、「設計されていないケースや、作動が承認されていないケース、あるいは回答の信頼性が低いケ 	<p>Regarding "where the risks from the AI system are high" in Paragraph 68, we would appreciate further information on concrete cases.</p> <p>As a specific example of the complementary governance measures described in Paragraph 68, we suggest adding that it is desirable to provide guidance on how to use AI safely from the perspective of AI users within insurers.</p> <p>While the first sentence of Paragraph 69 states that "In any case, insurers should ensure that AI systems only operate under the conditions for which they were designed and only when sufficient levels of confidence have</p>

		<p>一を特定」したとしても、新たなリスクの発現等により「十分な信頼性に達しない」ケースが生じる可能性は残ると考えられ、以下のように修正を行うのは如何か。</p> <p>---</p> <p>いずれにせよ保険会社は、AI システムの信頼性を高め、予測しない状況でもリスクを最小限に抑える仕組みや想定外の環境でも安全に動作することを検討することが望ましい</p> <p>---</p>	<p>been reached", even though the systems "identify cases in which they were not designed or approved to operate, or cases for which their answers are not reliable", cases where "sufficient levels of confidence have not been reached" may still exist due to the emergence of new risks, etc. Therefore, we suggest revising it as follows:</p> <p>"In any case, insurers should improve the reliability of AI systems. It is desirable to consider creating mechanisms that minimize risks even in unforeseen situations, as well as ensuring that systems can operate safely in unexpected environments."</p>
23	<p>セクション 5.3 受け手のステークホルダーに合わせた説明に関するコメント</p>	<p>パラ 72 に記載のように、保険会社が AI に関して敢えて説明を行わないことが適切・妥当であるケースがある旨の指摘は重要と考える。なお、同記載の場面以外にもあると考えられ、例えばセクション 5.2 のような、AI システムの成果に関する事項であっても、これを敢えて説明しないことが適切・妥当であるケースがあると思料する。</p>	<p>It is important to point out that there are some cases where it is appropriate and reasonable for insurers not to dare to provide explanations regarding AI, as described in Paragraph 72. We believe that this will also apply to other circumstances. For example, as Section 5.2 describes, there are cases where it is appropriate and reasonable not to even explain matters related to AI system outcomes.</p>
26	<p>セクション 6.2 デザインによる公正性に関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ 80 の効果的な挑戦と集団思考の回避について、その指す内容が不明確である。この項目を記載する場合は、明確化いただきたい。 ・パラ 80 の学習に使用したデータについて、学習時は正しくても時代の変化やパラダイムシフトなどにより正しくなくなる可能性があるため、この観点での正確性、妥当性の確認も必要であると指摘する。 	<p>Paragraph 80: The accuracy and validity of the data used in the learning also need to be checked from this perspective, since the data may be correct at the time of the learning but may no longer be correct due to changes in the times or paradigm shifts.</p> <p>Paragraph 80: Exactly what effective challenge and the avoidance of group think refers to is unclear. If these are to remain in the AP, we would appreciate clarification.</p>
30	<p>セクション 6.6 クレームおよび苦情に対する適切な救</p>	<p>パラ 92 において「AI システムで使用される情報源から、消費者が情報やデータを更新、補足、修正できる機能を含めるべきである」とされているが、全ての情報源について消費者が情報やデータを更新、補足、修正できる機能を含めるべき</p>	<p>Regarding the first sentence of Paragraph 92, it may be difficult to guarantee that part of the redress mechanism should include the ability for a consumer to update, supplement, or correct information and data from all sources, and requiring this for all AI systems would hinder the</p>

	<p>済メカニズムに関するコメント</p>	<p>とするのは担保困難な場合もあり、あらゆる AI システムについて義務づけることは保険会社の競争力を阻害することになる。そのため、この記載は削除するか、「含めることもできる」といった表現に修正していただきたい。</p>	<p>competitiveness of insurers. Therefore, we suggest deleting or revising "should include" and, for example, replacing it with "can also include".</p>
<p>31</p>	<p>セクション 6.7 きの細かいリスクプライシングの社会的影響に関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公平性や消費者保護の問題は、AI システムが不適切に使用された場合助長される可能性はあるにしても、AI システム固有の問題ではないことを指摘したい。きめ細かなリスクプライシング自体に問題があるわけではなく、リスクに応じたプライシングをすることと AI 活用は両立しうるものとする。 ・パラ 93 に「AI システムの展開によりプロテクションギャップが悪化している」とあるが断定することは誤りであるとする。 ・パラ 95 の 1 つ目の箇条書き（公平性とアクセシビリティ）、2 つ目の箇条書き（消費者保護）について、公平性や消費者保護の問題については、既に ICP に定められている要件に従い各法域で監督規制が定められている。保険会社が適切なリスク管理やガバナンス態勢を整え、これを各法域の監督当局が適切に監督することでこれらの問題は緩和されると考えており、ことさら AI に限定して言及する必要はないものとする。AI システム特有の問題との関係整理を頂きたい。仮に AI システム特有の問題に当たらない場合、セクション 2.3.1、パラ 19 の記載に照らすと、本記載は本 AP の対象範囲外となることから、パラ 95 の削除をご提案したい。 ・なお、公平性や消費者保護の問題が AI 固有の問題であるか否かは別として、パラ 95、1 つ目の箇条書き、2 点目、3 行目最後に記載の"pricing purposes"について、"unfair"を追加する必要があるとする。 	<p>Although they may be fomented if AI systems are used inappropriately, we should keep in mind that issues of fairness and consumer protection are not inherent to AI systems. There is no problem with granular risk pricing itself, and it is possible to balance both risk-based pricing with the use of AI. While Paragraph 93 indicates that the deployment of AI systems exacerbates the insurance protection gap, it is incorrect to make such a determination.</p> <p>Regarding "Equity and accessibility" and "Consumer protection" in Paragraph 95, the issues of fairness and consumer protection, regulations have been developed in each jurisdiction in line with the ICP requirements. If insurers ensure appropriate risk management and governance systems, and the authorities in each jurisdiction supervise them appropriately, the problems can be mitigated. In view of this, there is no need to mention AI exclusively in this context. We suggest clarifying how "Equity and accessibility" and "Consumer protection" are related to the unique issues of AI systems. If these issues are not specific to AI systems, considering the description in Paragraph 19, they are outside the scope of this AP. Therefore, we suggest deleting Paragraph 95.</p> <p>Furthermore, regardless of whether issues of equity and consumer protection are unique to AI, we suggest adding "unfair" to "pricing purposes" in "Possible mitigants" in Paragraph 95.</p>

32	AI に関して IAIS はさらにどのような取り組みが可能か	<ul style="list-style-type: none">・ 保険会社における AI の利活用事例（タスクレベル）と、そのガバナンスに関するベストプラクティスなどの情報収集・提供。・ 国・地域ごとの AI 利活用度や品質等の傾向分析を、当該領域に適用されている AI 関連法令の分析とクロス分析する等の研究。・ 銀行、証券等、他の金融セクターや AI セクター（AI プロバイダー等）との連携。	<p>Collecting and providing information on examples of AI use within insurers (at the task level) and best practices regarding its governance, etc.</p> <p>Research such as analyzing trends in AI utilization, quality, etc. by country/region, cross analyzing AI-related laws and regulations applicable, etc.</p> <p>Collaboration with other financial sectors, such as the banking and securities sectors and the AI sector (AI providers, etc.).</p>
----	--------------------------------	--	---